

福岡県地球温暖化対策実行計画 (第2次) の進捗状況

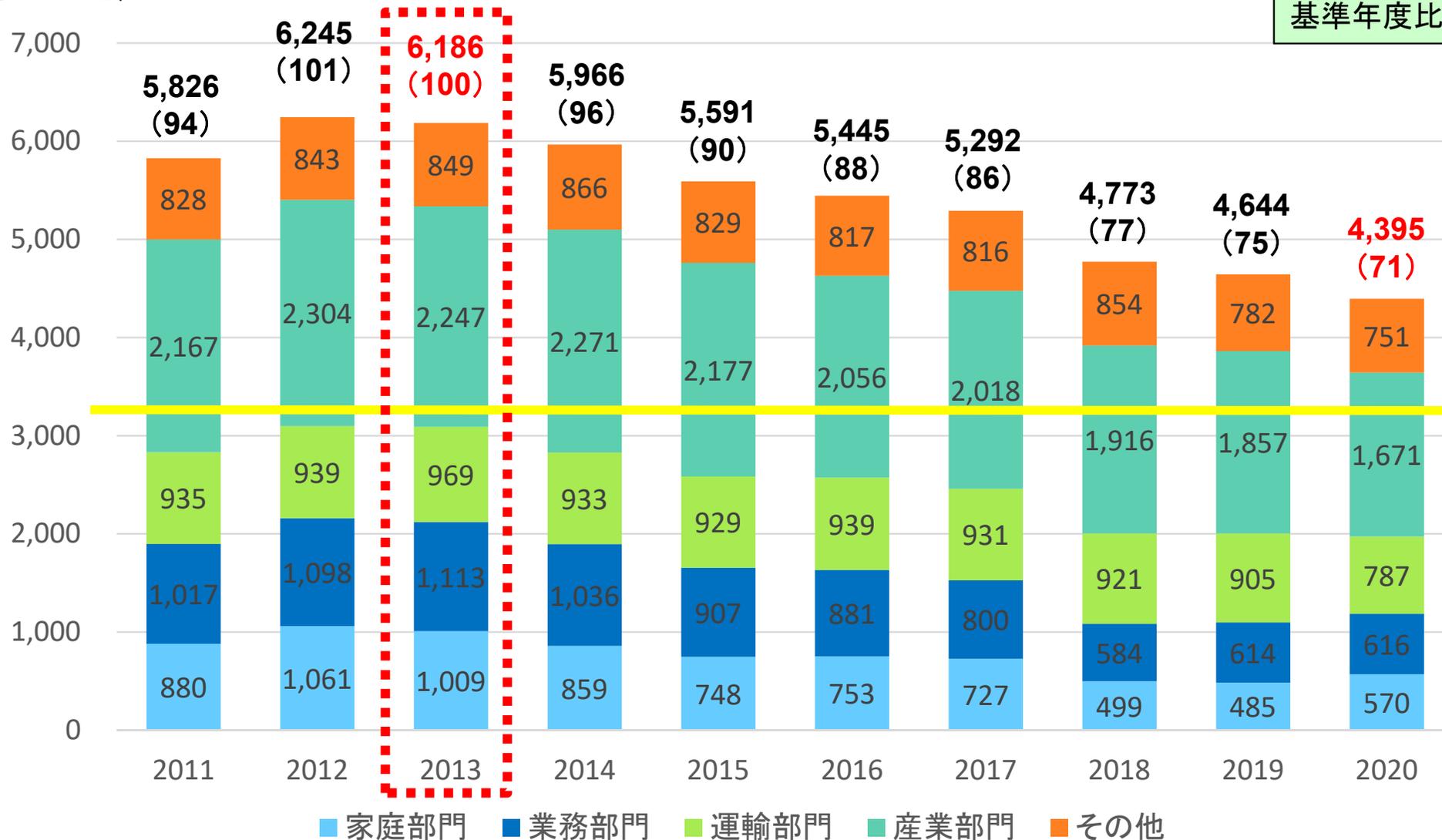
令和5年10月

1. 計画の概要(基本的事項)

計画の位置づけ	本県における地球温暖化対策を総合的・計画的に推進するための施策大綱であり、県民、事業者、行政の各主体が積極的に取組を行うための指針（平成29年3月策定、令和4年3月改定）
目標	<p><福岡県の温室効果ガス排出量の削減目標></p> <p>【長期目標】2050（令和32）年度に福岡県の温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す。</p> <p>【中期目標】2030（令和12）年度における福岡県の温室効果ガス排出量を2013（平成25）年度比46%削減する。</p> <p><部門別の目標></p> <p>【エネルギー】2026年度の再生可能エネルギー発電設備導入容量を405万kWにする</p> <p>【家庭】2030年度における1世帯当たりのCO₂排出量を2013年度比69%削減（エネルギー消費量削減の目安：37%削減）</p> <p>【業務】2030年度における事業所の床面積当たりのCO₂排出量を2013年度比60%削減（エネルギー消費量削減の目安：20%削減）</p> <p>【自動車】2030年度における使用自動車1台当たりのCO₂排出量を2013年度比37%削減</p>

2. 温室効果ガス排出量の推移

(万トン-CO₂)

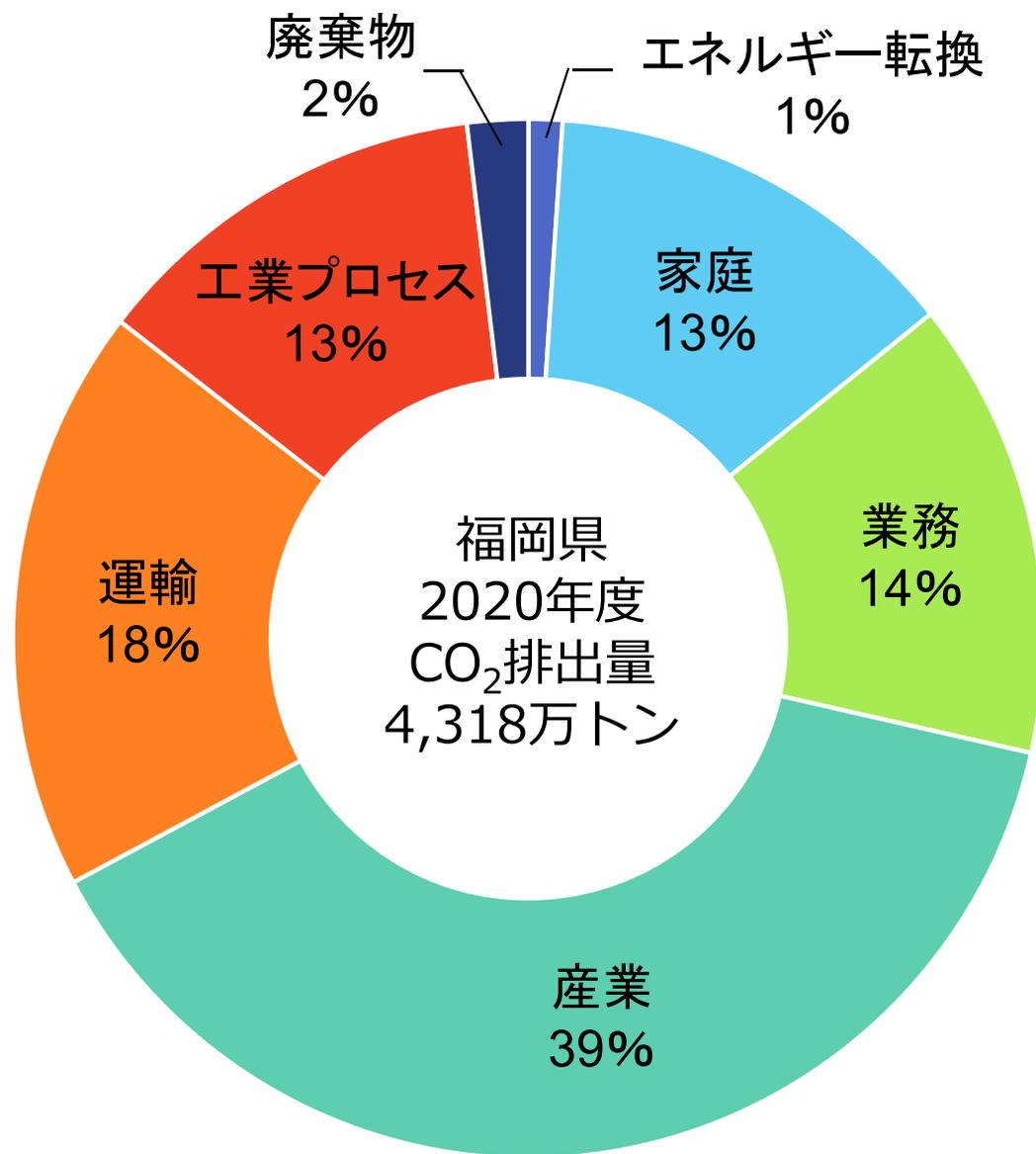


前年度比: 5.4%減
基準年度比: 29.0%減

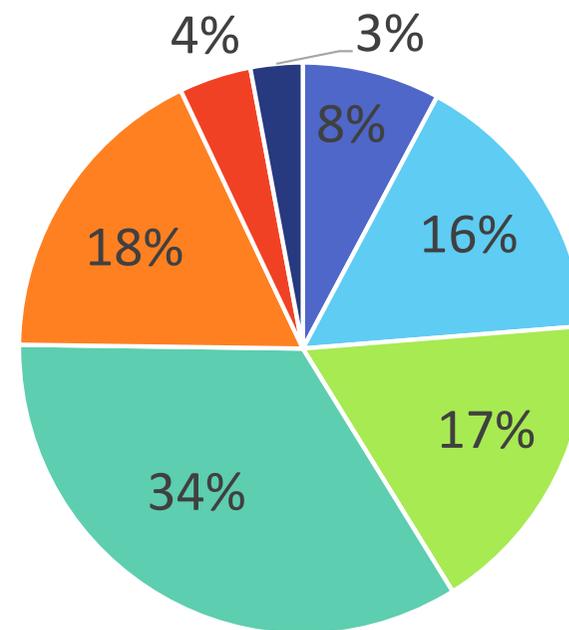
削減目標
▲46%

- ・2020年度の温室効果ガス排出量は4,395万トン。(CO₂: 4,318万トン)
- ・温室効果ガス排出量は2013年度比で29.0%減少。

3. CO₂排出量の部門別構成

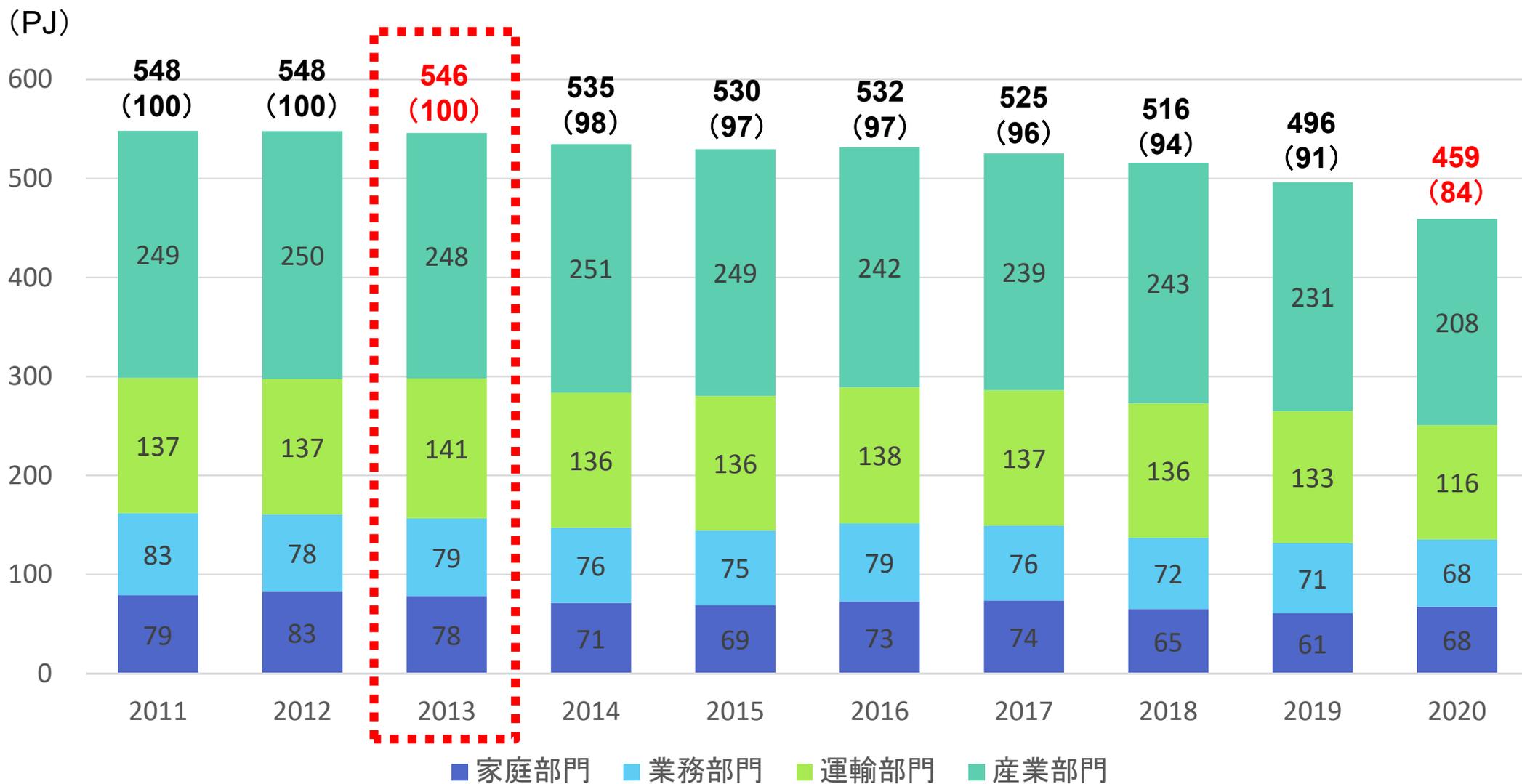


【参考】全国 2020年度
CO₂排出量
1,044百万トン



- ・県は、全国平均に比べ、産業部門と工業プロセス部門の割合が高い(全体の約5割)
- ・全体の4割強は、家庭や事業者等の民生部門、自動車等の運輸部門から排出。

<参考> エネルギー消費量の推移

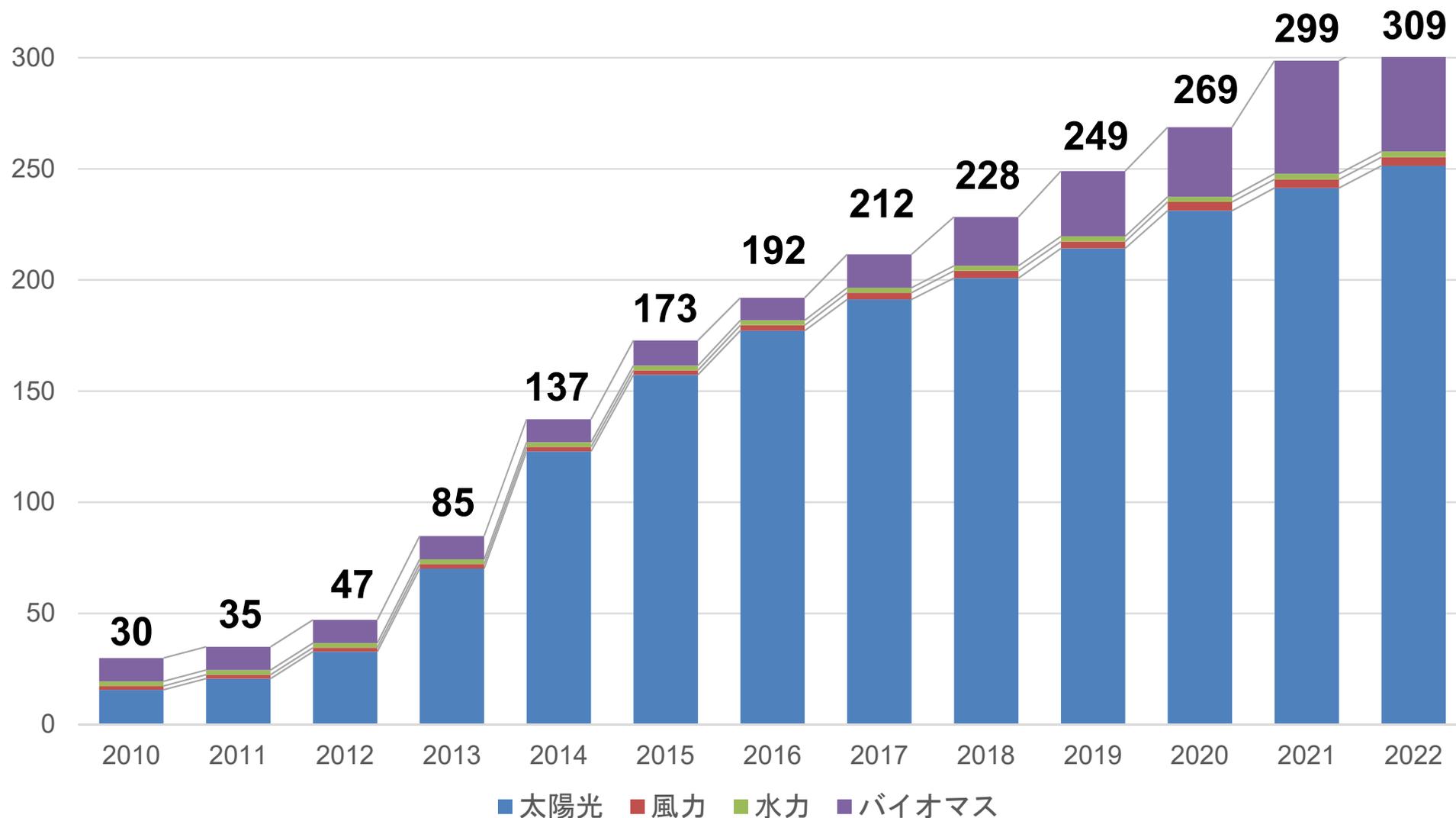


- ・2020年度のエネルギー消費量※は459PJ
- ・エネルギー消費量※は2013年度比で15.9%減少

※ エネルギー転換部門を除くエネルギー起源の最終エネルギー消費量

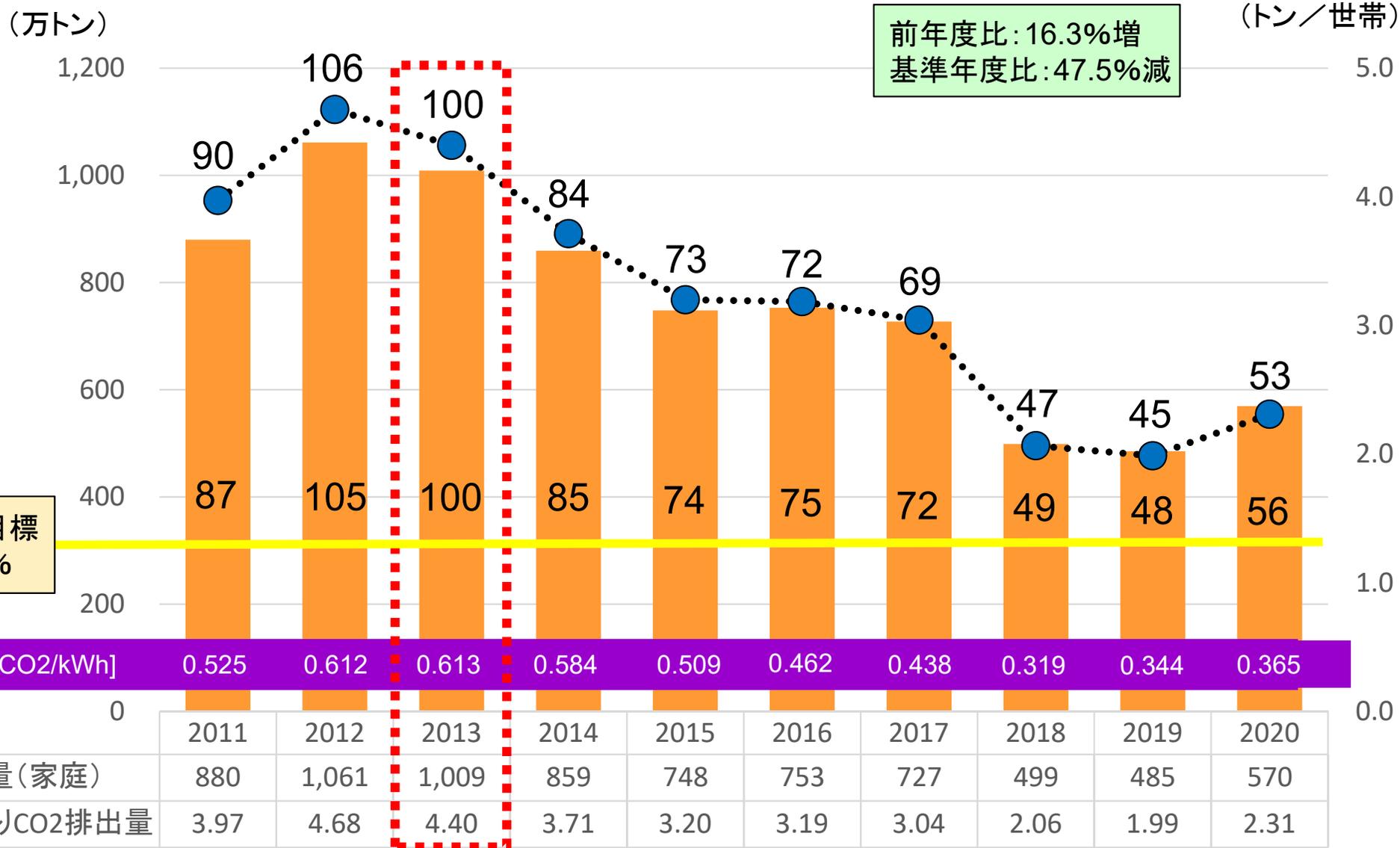
4-1. 再生可能エネルギー—累積導入量

(万kW)



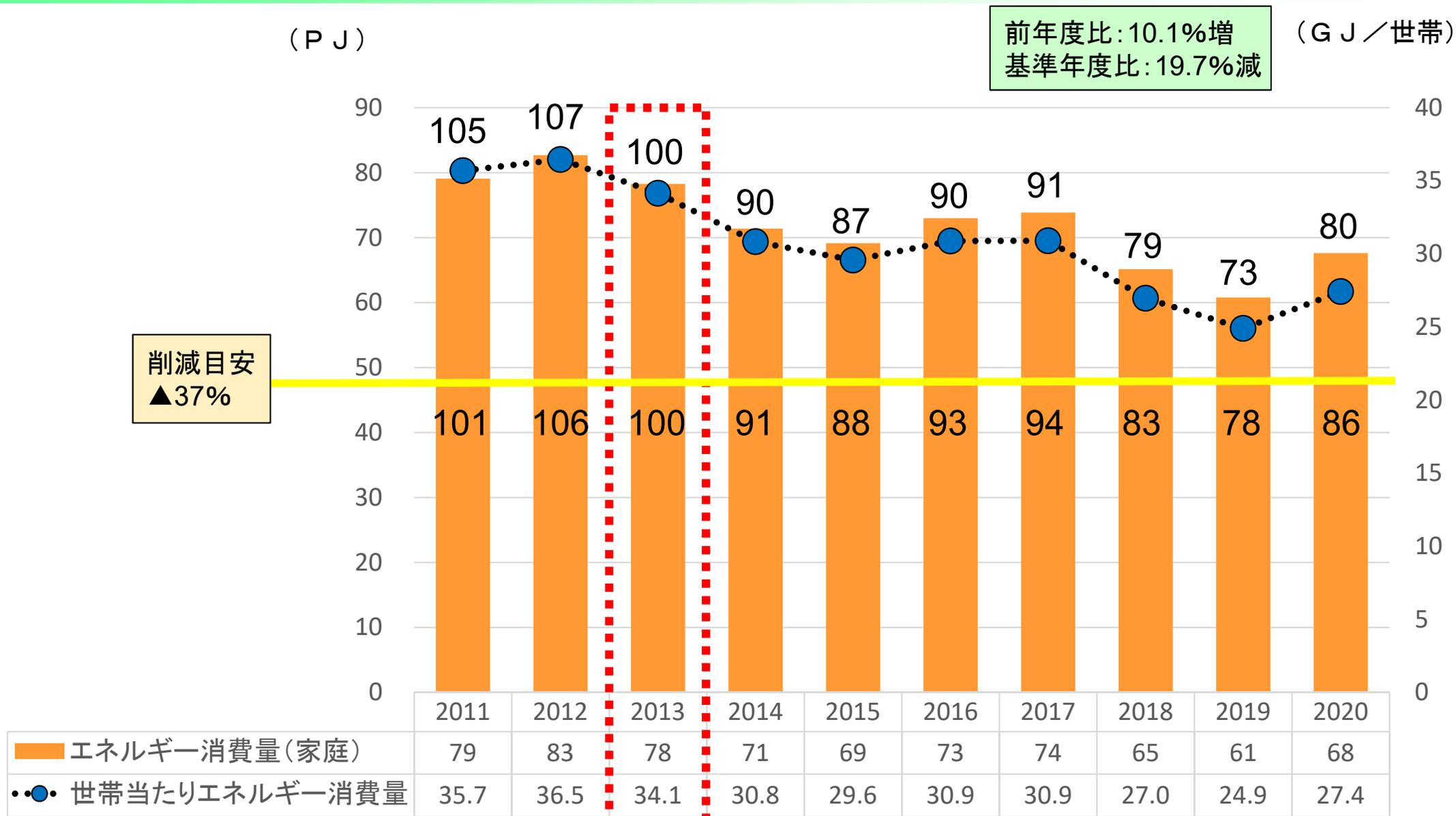
・再生可能エネルギーの累積導入量は、2022年度約309万kWと2021年度から約10万kW増加。

4-2. 家庭部門のCO₂排出量の推移



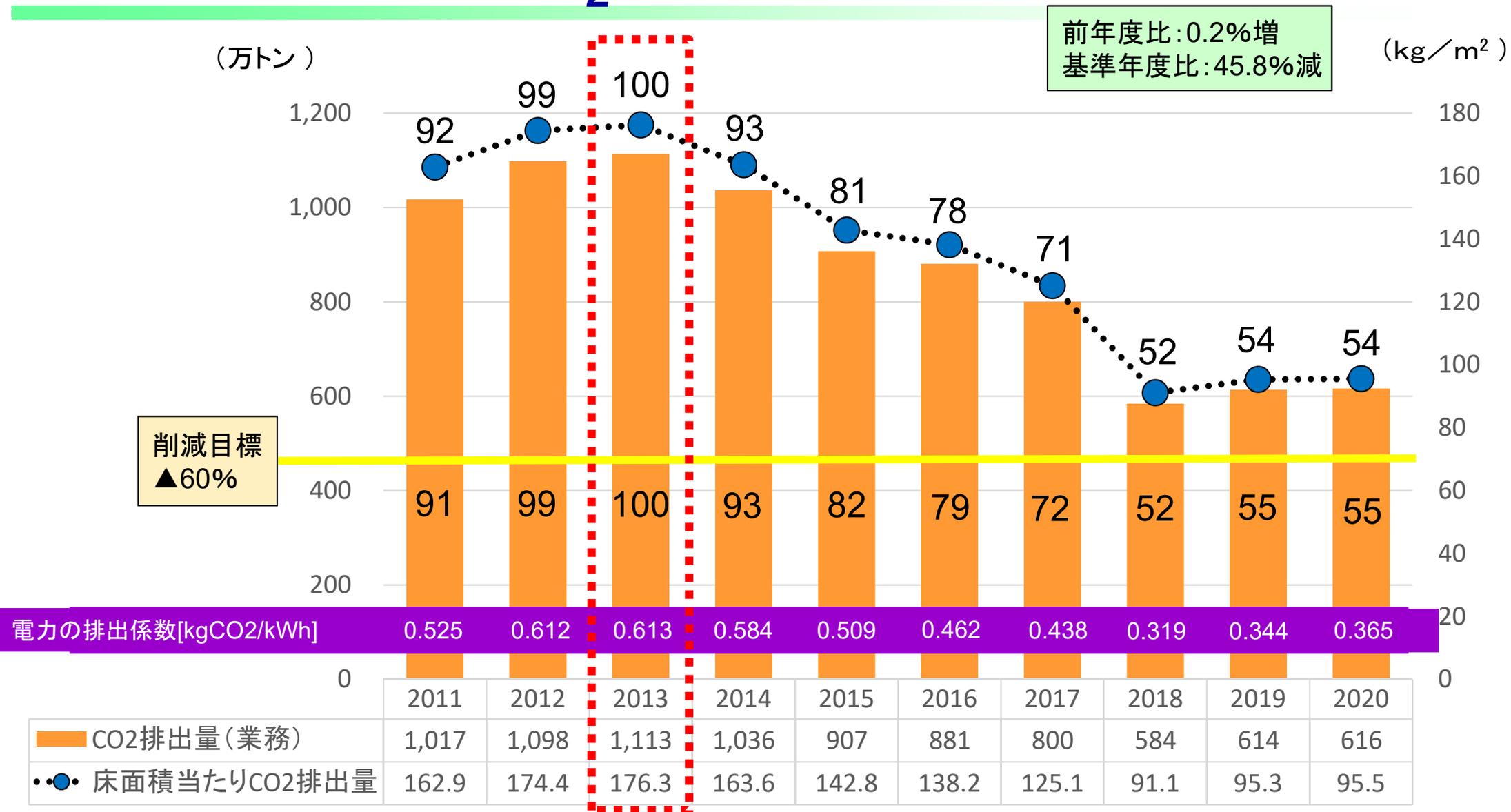
- ・家庭部門のCO₂排出量は、2013年度以降、電力の排出係数の低下等に伴い減少傾向。
- ・2020年度の世帯当たりCO₂排出量は、2013年度に比べて47%減少

4-3. 家庭部門のエネルギー消費量の推移



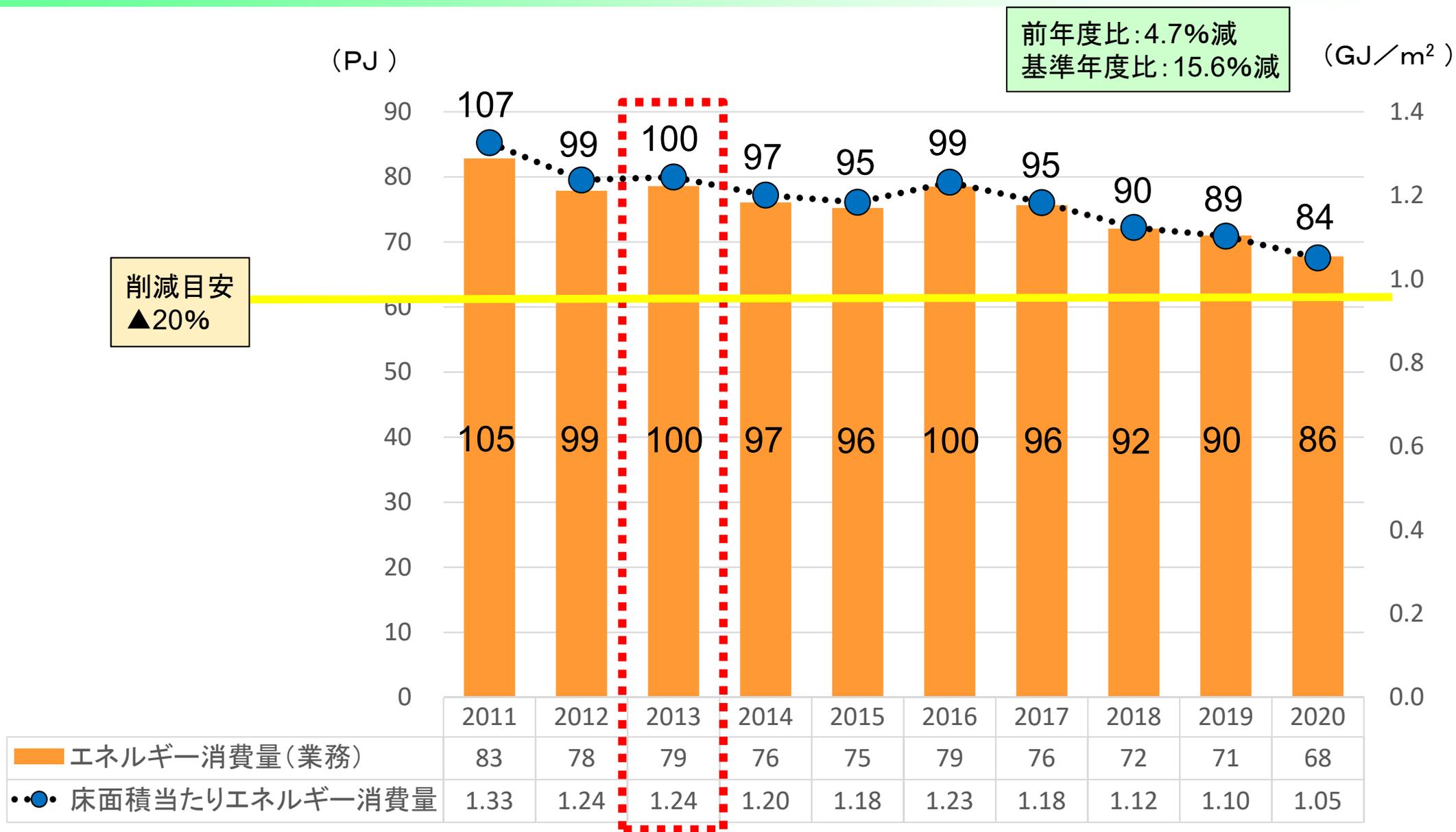
- ・家庭部門のエネルギー消費量は、2013年度以降おおむね減少傾向。
- ・2020年度の世帯当たりエネルギー消費量は、2013年度に比べて20%減少。

4-4. 業務部門のCO₂排出量の推移



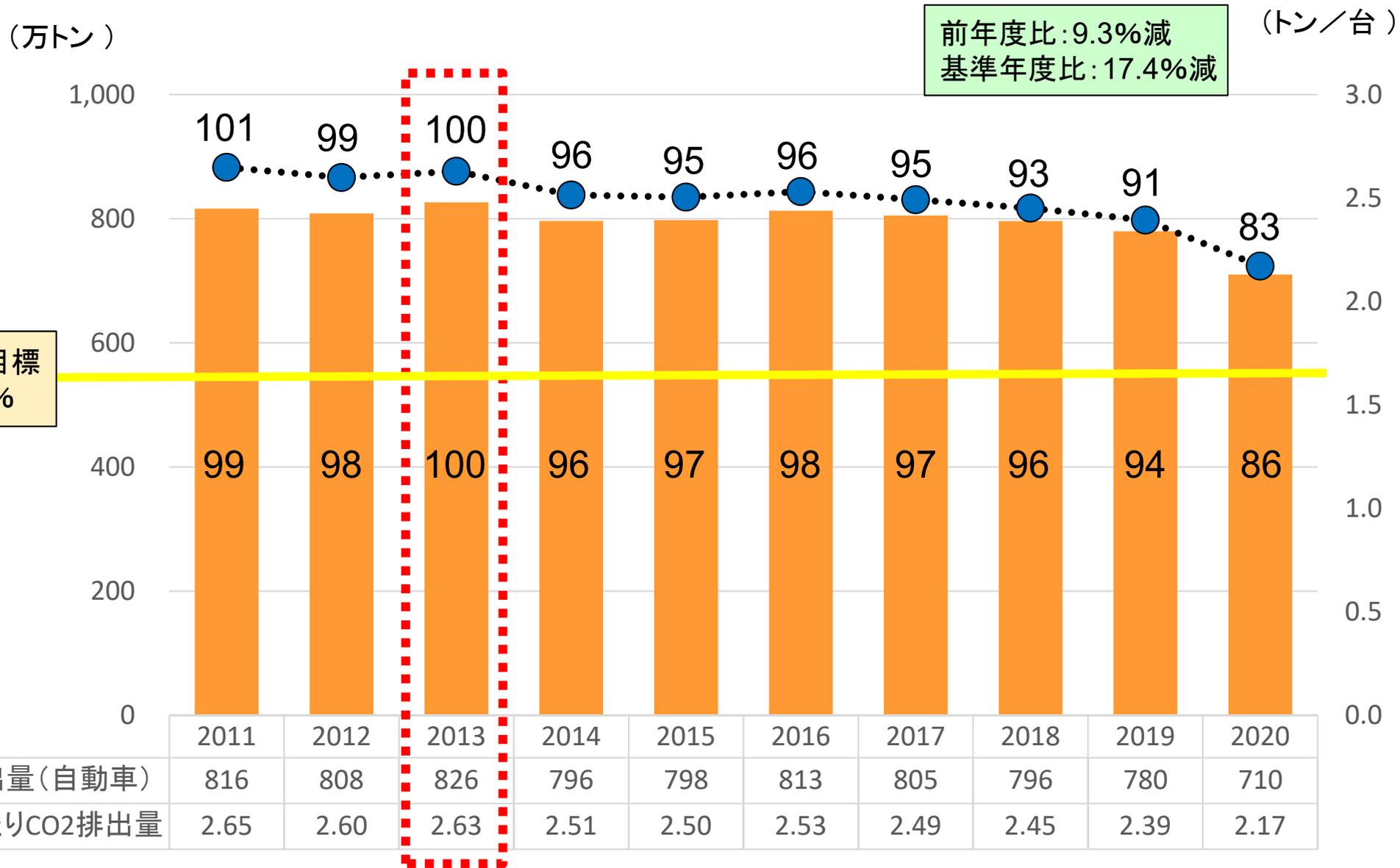
- ・業務部門のCO₂排出量は、2013年度以降、電力の排出係数の低下等に伴い減少傾向。
- ・2020年度の床面積当たりCO₂排出量は、2013年度に比べて46%減少。

4-5. 業務部門のエネルギー消費量の推移



- ・業務部門のエネルギー消費量は、2013年度以降微減傾向。
- ・2020年度の床面積当たりエネルギー消費量は、2013年度に比べて16%減少。

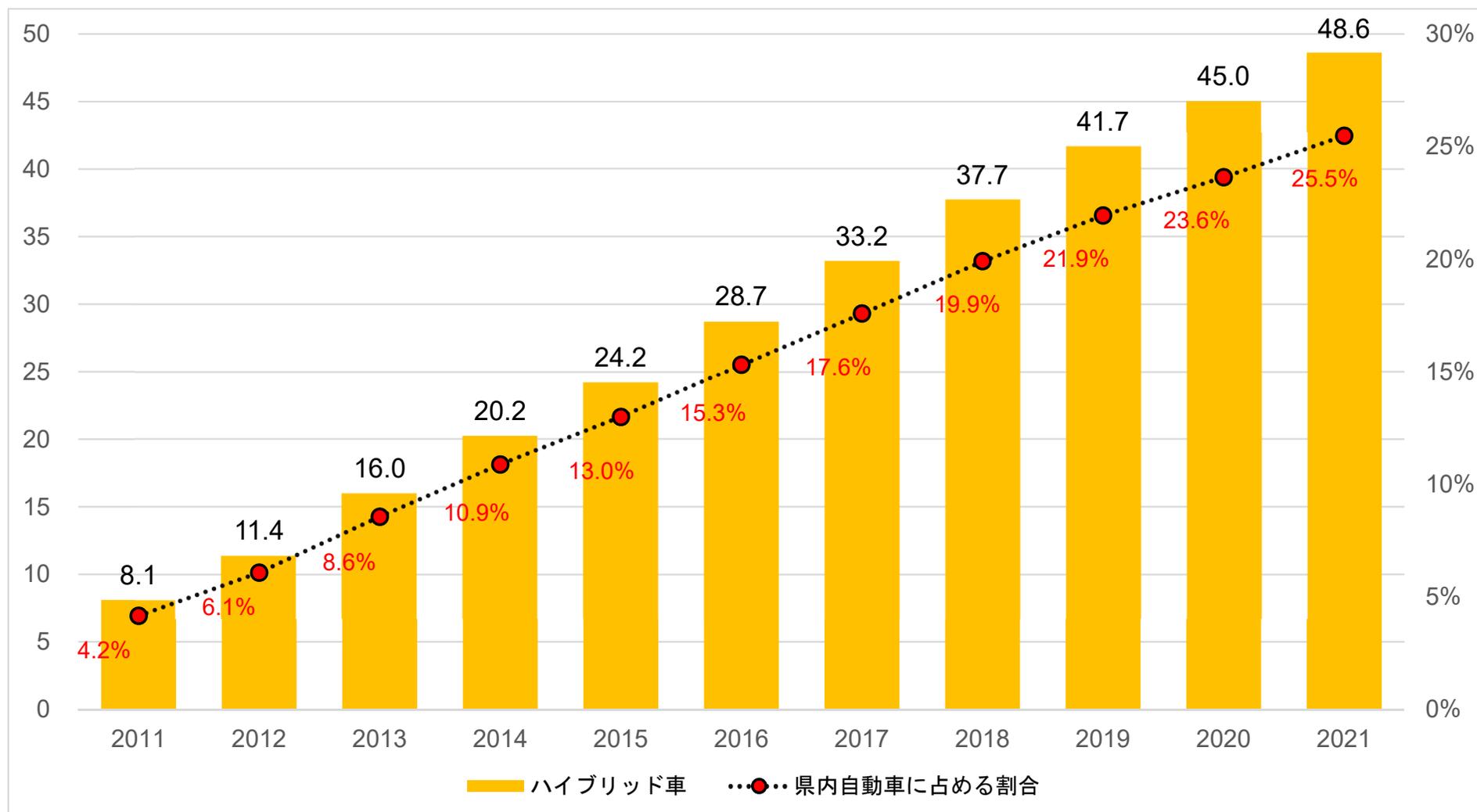
4-6. 運輸部門(自動車)のCO₂排出量の推移



- ・運輸部門(自動車)のCO₂排出量は、2013年度以降微減傾向。
- ・2020年度の1台当たりCO₂排出量は、2013年度に比べて17%減少。

<参考>ハイブリッド車(HV)の普及状況

(万台)

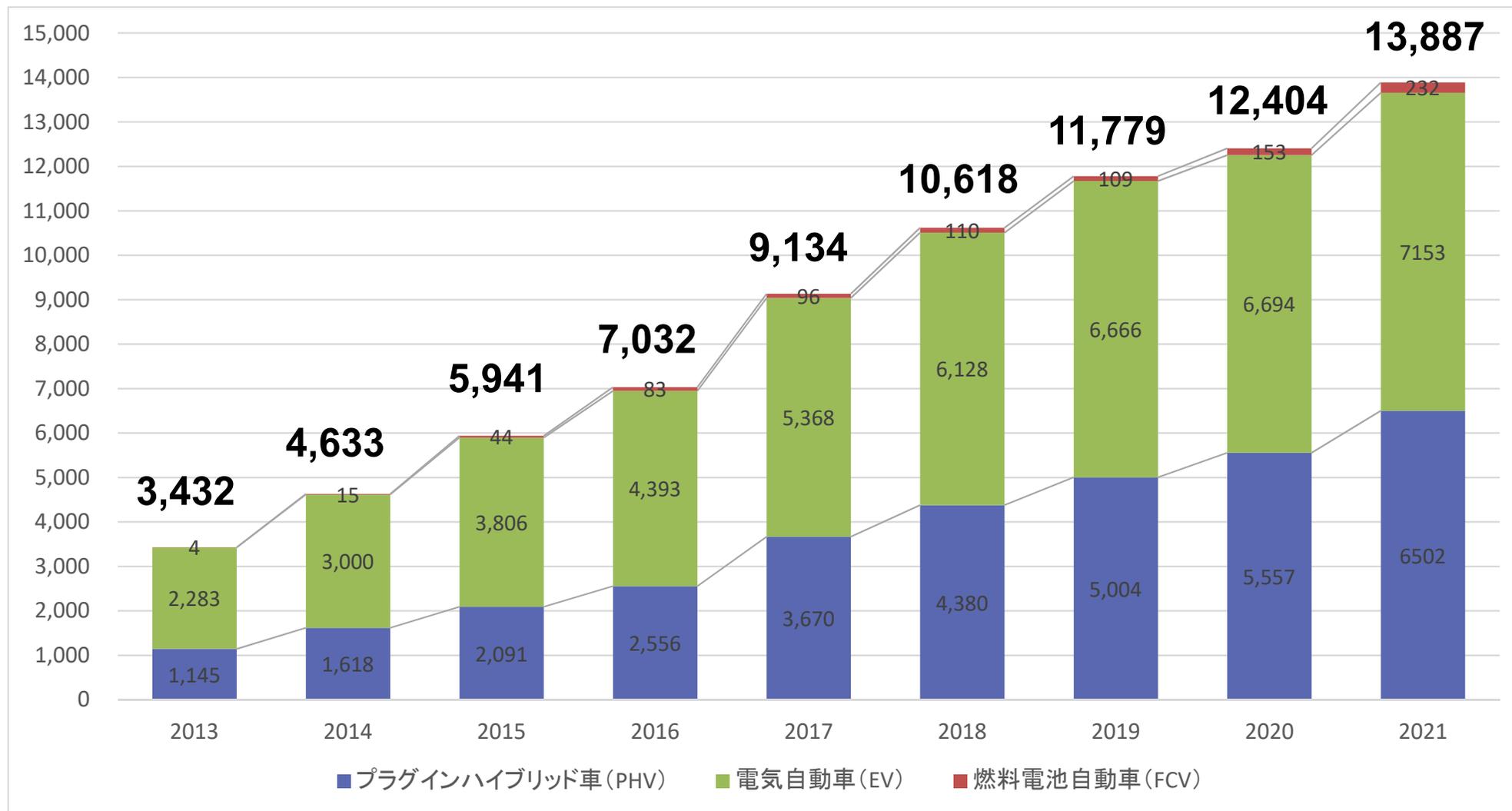


出典:九州運輸局資料を基に事務局にて作成

・ハイブリッド車(HV)は、2021年度に約48.6万台となり、県内の自動車保有台数の25.5%を占めている。

<参考>PHV、EV、FCVの導入状況

(台)



出典:九州運輸局資料を基に事務局にて作成

・近年、プラグインハイブリッド車 (PHV)、電気自動車 (EV)、燃料電池自動車 (FCV) の導入も進んできており、2021年度には県内で約1万3千台超となっている。

4-7. 進捗状況の考察

(1) CO₂排出量の減少要因

- 産業界自主行動計画による省エネ対応、車両本体の燃費改善、省エネ対応機器（OA、空調、照明等）の増加、節電への対応等のエネルギー消費原単位が減少したことが挙げられる。
- 2020年1月に日本国内では初の症例が探知された新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に起因する製造業の生産量の減少、旅客及び貨物輸送量の減少等が挙げられる。

(2) エネルギー消費量の減少要因

- 省エネ意識の高まりや高効率設備（LED照明や省エネ家電等）の導入等により、エネルギーの高効率的利用が進んだことなどが考えられる。

5-1. 施策の進捗状況(エネルギー部門)

これまでの主な取り組み内容		事業実績等(令和4年度実績)
①	再エネの導入検討に必要な基本データを提供する「再生可能エネルギー導入支援システム」をインターネット上で公開し、民間企業等における再生可能エネルギー導入を支援する環境整備	<システム利用者数> 10,429 人
②	廃棄太陽光パネルの適正処理の確保、リサイクルの推進による資源の有効利用の観点から、廃棄パネルに関する保管量、保管場所等の情報をクラウド上で共有し、適切な時期に効率的に回収する「スマート回収システム」の導入推進	<システムを運用する太陽光発電(PV)保守・リサイクル推進協議会の会員数> 48 社・団体(12社・団体増)
③	オールジャパンの産学官が一体となった「福岡県水素グリーン成長戦略会議」を中核として、水素製造、輸送・貯蔵から利用まで一貫した研究開発、水素に関する幅広い知識と技術を有する人材の育成、製品開発支援や技術アドバイザー派遣による新産業の育成・集積、水素・燃料電池の普及拡大など、総合的な取組を推進	<育成人数> 40 人 <製品開発への助成件数> 5 件

5-2. 施策の進捗状況(家庭部門)

これまでの主な取り組み内容		事業実績等(令和4年度実績)
①	省エネ・省資源に取り組む県民をエコファミリーとして募集し「九州エコファミリー応援アプリ(エコふぁみ)」の運用などを通じてその活動を支援することで、家庭における省エネルギー行動を促進	<エコふぁみアプリのユーザー数> 11,878 人(3,519 人増)
②	県民の脱炭素へ向けた行動変容を促すため、脱炭素啓発CMを制作し配信	<CMの配信> 駅前大型ビジョン(博多・小倉)、SNS(インスタグラム)等での放映
③	「ふくおかエコライフ応援サイト」等で家庭における省エネ方法などライフスタイルの転換につながる情報を積極的に発信し、家庭における省エネの取組を支援	<ページレビュー数> 122,134 PV
④	福岡県地球温暖化防止活動推進センターや地球温暖化防止活動推進員の活動により、地域住民からの相談対応など、地域に密着した啓発活動を推進	<家庭の省エネ診断数> 58 世帯

5-3. 施策の進捗状況(業務部門)

これまでの主な取り組み内容		事業実績等(令和4年度実績)
①	省エネルギー・省資源に取り組む「エコ事業所」を募集し、その活動を支援することで、事業所における省エネルギー行動を促進	<エコ事業所> 2,522 社(118 社増)
②	省エネルギーに関する無料の相談窓口を開設。必要に応じて専門家を派遣し、現地診断を実施	<現場相談件数> 99 件
③	中小企業等に対する省エネルギー効果が高い既存設備の更新や機器導入への補助	<補助金の交付件数> 37 件
④	経営者を対象とした脱炭素経営セミナーや技術者向けセミナー、業種別の補助金セミナーを開催	<セミナーの実施回数> 6 回

5-4. 施策の進捗状況(運輸部門)

これまでの主な取り組み内容		事業実績等(令和4年度実績)
①	県の公用車の更新時において、対象車種に電動車が含まれる場合には、費用対効果を勘案しつつ、率先して電動車を導入	<導入台数> 6台
②	電動車に係る国の補助金について周知し、電動車を普及・促進	<周知方法> ふくおかエコライフ応援サイトや県HP
③	自動車からのCO2排出量を削減するため、地域公共交通(鉄道、路線バス等)の利用促進	<利用者数> 鉄道 1,064千人/日(R3年度実績) 路線バス 201,101千人(R3年度実績)
④	自転車の活用を促進するとともに、円滑な交通を確保することで、自動車からのCO2排出量を削減	<県管理道路の整備> 直方北九州自転車道線 筑紫野古賀線 等

5-5. 施策の進捗状況(その他)

これまでの主な取り組み内容		事業実績等(令和4年度実績)
①	プラスチックごみ削減の取組を進める事業者の登録制度「ふくおかプラごみ削減協力店」の運用、「ふくおかプラごみ削減キャンペーン」の実施、地域や学校等で開催される学習会への「3Rの達人」の派遣などにより、県民や事業者の3Rの取組を促進	<p><プラごみ削減量> 737トン(キャンペーン期間中)</p> <p><プラごみ削減協力店登録数> 4,093店(317店増)</p>
②	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育副読本や地球温暖化対策ワークブックを県内の小中学生等へ提供 ・楽しみながら自主的に環境教育・保全活動に取り組む「子どもエコクラブ」の活動を支援 	<p><環境副読本の配布数> 28,000部</p>
③	県有施設における緑化や、都市公園等の整備において、緑地の適切な保全及び緑地空間の創出を行うなど、緑化を推進	<p><県有施設の緑化> 5件</p> <p><県産緑化木の植栽> 1,095本</p>

5-6. 施策の進捗状況(適応策)

これまでの主な取り組み内容		事業実績等(令和4年度実績)
①	新たな高温耐性品種の開発を加速するとともに、現地での実証を拡大し、普及を迅速化	・水稲品種「つくしろまん」の代替りとなる、いもち病に強く、高温登熟性に優れる良食味水稲品種「恵つくし」の開発
②	英彦山等におけるシカの生息数増加による絶滅危惧種の食害が深刻化したため、シカ防護柵の設置やシカの捕獲等を実施	<シカの捕獲頭数> 255 頭
③	災害時における情報発信や通信環境の改善・確保に向けた取組を推進するとともに、短時間で激甚化する災害に対応した住民避難行動の迅速・円滑化を推進	・福岡県防災アプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」による防災情報の配信
④	熱中症予防について、県ホームページや県広報紙、SNS等を活用した普及啓発や注意喚起を実施	・県ホームページや県広報誌、SNS、ふくおか健康ポイントアプリ、ポスター配布等での普及啓発・注意喚起